



第60回 栃木県幼稚園教育研究大会



式典
主催者挨拶(要約)
栃幼連理事長 石嶋 勇

先日の参議院選においては、栃木県幼稚園連合会、全日本私立幼稚園連合会、立幼幼稚園連合会が推薦した高橋克法さんが見事当選をすることになりました。これは一六六七三五名、全国総数では四、三一九、六八八名の署名を頂き、数多くの方々のご理解のもと、幼児教育に対する厚いご支援を頂いているところである。この場を借りて心からお礼を申し上げます。

さて、我々は何と言ってもやはり幼い子どもたちをお預かりしている幼児教育者である。その子どもたちの幸せの為に我々に何が出来るのかを共に考えよう。そして、皆さんは毎日暑い中、真っ黒になって努力されていることと思う。心から先生方に対する敬意を表すると共に、ブラ



が出来たと共に、幼児教育無償化に向けた署名運動も多くの皆様からのご支援とご協力を頂き、本県としては一六六七三五名、全国総数では四、三一九、六八八名の署名を頂き、数多くの方々のご理解のもと、幼児教育に対する厚いご支援を頂いているところである。この場を借りて心からお礼を申し上げます。

式典
主催者挨拶(要約)
栃幼連理事長 石嶋 勇

時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一 氏

第114号

平成25年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／馬場章信 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



来賓祝辞

栃木県知事 福田 富一



核家族化あるいは共働き世帯の増加により、家庭や地域の子育て機能の低下が懸念されているところである。幼稚園は人間形成の基礎を培う幼児教育に加え、地域における子育て支援の核的役割を果たしている。現在、国においては、平成二十七年の四月から子ども子育て支援新制度のスタートを目指して各種検討が行われており、今後子どもを育てる環境が大きく変わろうとしているが、その新たなステージにおいても、幼稚園はその一翼を担うべくさらなる活躍が期待されている。

県としても幼稚園が果たす社会的使命を充分認識し、引き続き幼児教育の振興や、子育て支援の充実にしっかりと取り組んでいく。また、ふるさと栃木への思い、すなわち郷土愛を深める、あるいは栃木の良さを改めて実感する、こういう一年に、この栃木県誕生百四十周年の節目の年としてまいりたいと考えているの

で、ご支援とご協力を宜しくお願いしたい。

表彰

受賞おめでとうございます

●栃幼連 幼稚園教育功労者表彰

戸田 直樹先生(すぎのこ二島)

●栃幼連 永年勤続表彰

四十年表彰 四名 三十年表彰 十名
二十年表彰 十六名 十年表彰 四十五名

公演会

「たにぞうの元気が一番 あそびうた」

講師 創作あそび作家

谷口 國博(たにぞう)氏



東京都の保育園に五年間勤務した後、フリーの創作あそび作家となった谷口氏は、子育て雑誌、新聞、保育雑誌などに遊びやエッセイなどを執筆している。今回は、最初から軽妙なトークと「バスに乗って」など幼稚園ですぐに役立つ元気なあそびうたを多数披露された。他にも、アイデア満載のパフォーマンスに会場全体がひとつになり楽しく学ぶことができた。

御礼

県大会全体会にてご依頼差し上げました「福島県私立幼稚園連合会」への義捐金に多くの皆様からご協力いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

総額 113,521円

保育者が心豊かに保育をするために(87名)

助言者 日吉佳代子(宇都宮共和大学・教授)
コーディネーター 加藤みどり(真岡さくら幼稚園・園長)



参加者の声

若い先生たちがどのようなことで悩んでいるのか、何が不安なのか、最近わからなくなっていた。他の園の先生たちの考えを聞くことで、改めてこれからどう接していくべきなのかを考えさせられた機会となった。

3分科会

子どもたちのやさしさや思いやりの育ち(114名)

助言者 徳田 克己(筑波大学医学医療系・教授/子ども支援研究所・所長)
コーディネーター 戸室まち子(晃望台幼稚園・教諭)



参加者の声

好ましい行動を褒めること、又、モデルとして提示することの重要性を感じたと共に、保育を行う上で気をつけたいと思った。そして、こどもの思い意見を言葉にする場を大切にしていきたいと思った。

4分科会

特別支援教育<上級>

～支援児を受け持つ担任(担当者)が孤立しないために～(34名)

助言者 野呂 文行(筑波大学・教授)
コーディネーター 斎藤 佳子(しずわでら幼稚園・園長)



参加者の声

特別支援に対する園の体制の在り方が明確になった。一人で抱えることなく周りの人にも共有してもらうことで、もっと良い支援につながっていくと思う。

5分科会

「学び」をとらえなおす(72名)

助言者 鈴木 眞廣(社会福祉法人わこう村 和光保育園 演出人兼大工(園長))
コーディネーター 山崎 英明(釜井台幼稚園・副園長)



参加者の声

子どもたちの興味関心に寄り添い共に学ぶ保育を心がけたい。自分にできることを見つけ、諦めずに今出来る事を一つでも実践していきたい。改めて自分・保育を見つめ直すことができた。

6分科会

今、幼児期にふさわしい体験や活動を考える(113名)

助言者 石原 栄子(作新学院大学女子短期大学部・幼児教育科長)
コーディネーター 田名網優子(明星幼稚園・教諭)



参加者の声

自然体験や五感を使った体験の大切さや、環境構成の重要性を感じた。保育者の役割の重要性を再確認した。また、保育者自身が楽しんで活動していきたい。

7分科会

第60回

栃木県幼稚園教育研究大会 2日目

21世紀をになっていく子どもたちが、瞳きらめく数々の体験を通じて、豊かな心を育み、生きる力の基礎を培っていきけるよう、2日目は、16の分科会に分かれて研究・研修にあたった。

各分科会の話題提起者と会場は下記のとおり。

●保育内容研究部門

分科会	話題提起者	会場
1	田崎 絢子(風と緑の幼稚園・学年主任) 矢野 麻由(上河内幼稚園・主任教諭)	コンセーレ
2	根岸 由佳(矢場川幼稚園・教諭) 根岸 美緒(足利いずみ幼稚園・教諭)	県総合文化センター
3	河井 美奈(高ノ台第二幼稚園・教諭) 矢野 愛恵(茂木愛泉幼稚園・教諭)	二荒山会館
4	福田 佳織(鹿沼幼稚園・教諭) 桑川波留果(鹿沼みどり幼稚園・教諭)	コンセーレ
5	清水 和美(認定こども園西那須野幼稚園・教諭) 大竹由佳理(認定こども園西那須野幼稚園・教諭)	県総合文化センター
6	鈴木 眞廣(社会福祉法人わこう村 和光保育園・演出人兼大工 園長)	パルティ
7	山田美美子(犬伏幼稚園・教諭) 大鷲 和也(呑竜幼稚園・教諭)	二荒山会館
8	小川 優香(認定こども園烏山みどり幼稚園・教諭) 笠原 里美(高根沢第二幼稚園・教諭)	県総合文化センター
9	石戸奈緒美(みふみ幼稚園・主任) 佐藤 優子(石川幼稚園・主任)	県総合文化センター

●講座部門

分科会	会場
10	二荒山会館
11	とちぎ青少年センター
12	コンセーレ
13	県総合文化センター
14	パルティ

●免許更新、新採研

分科会	会場
15	作新学院幼稚園聴蛙館
16	県総合教育センター

幼児期の健康な体と心を育む(64名)

助言者 杉原 隆(田中教育研究所・所長/東京学芸大学・名誉教授)
コーディネーター 今井 政範(さくらが丘幼稚園・副園長)



参加者の声

子どもの自主性・自己決定を尊重することの大切さが分かった。自分が必要だと思っていた運動は、間違いだったと分かった。「遊びの要素の多い活動」で、様々な動きを取り入れたい。

1分科会

幼児の安全を守る保育と環境構成(59名)

助言者 山崎 久子(足利短期大学・教授)
コーディネーター 前田 和子(友愛幼稚園・園長)



参加者の声

子どもの年齢によって、発達や成長の違いによってケガの特徴があることを学び、毎日の保育や環境をもう一度見直し、設定し、保育者も努めて防げる危険は防いでいこうと思った。

2分科会



自園のアイデンティティー～新制度本格施行前に考えておくべきこと～(65名)

助言者 網野 武博(武蔵野大学・客員教授)
パネラー 東ヶ崎 静仁(認定こども園飯沼保育園・理事長)
 中山 昌樹(認定こども園あかみ幼稚園・園長)
コーディネーター 大嶋 裕(今市中央幼稚園・副園長)



参加者の声

助言者の講義がわかりやすく、パネラー2名は幼・保の違いを具体的な事例を挙げて話され、今後の幼稚園の在り方について改めて考える良い機会となった。地域の乳幼児対象総合施設として存在するために目指すべき方向性が理解できた。

13分科会

保育の中に生かすリトミック(65名)

助言者 山口 晶子(宇都宮共和大学・准教授)
コーディネーター 井上 智賀(旭幼稚園・園長)



参加者の声

今までリトミックは苦手意識を持っていたが、楽しいと思えるようになった。声かけの仕方ひとつで動きが変わることを学んだ。リトミック=ピアノというイメージが強かったが、ピアノを使わなくてもできることがたくさんあることを知った。

14分科会

免許状更新講習(76名)

助言者 畠山 大(作新学院大学女子短期大学部・講師)
コーディネーター 山荷フサ子(作新学院幼稚園・教頭)



15分科会

新規採用幼稚園教諭研修(209名)

全体会：前原 由紀(栃木県幼児教育センター・指導主事)
 ワークショップ：小林己伸、渡邊紀子、添谷元良、早乙女陽一、
 高德 晃、佐藤孔之(栃木県総合教育センター生涯学習部・社会教育主事)
 演習：鰐淵有紀(恵光)、塩沢順子(静和)、篠崎敦子(七井)、



三田貴子(足利こぼと)、
 永瀬絵理子(呑竜)、
 館野富美(大平みなみ)、
 山中理津子(法得)、
 高木ひろ(鹿沼ひかり)、
 田城いくよ(すみれ)、
 浅見容子(ふたば)
 (詳細はP.6)

16分科会

子育て支援～預かり保育の充実～(53名)

助言者 伊達 悦子(作新学院大学・名誉教授/作新学院大学大学院・特任教授)
コーディネーター 萩原美奈子(高根沢第二幼稚園・教諭)

参加者の声



預かり保育の根本、子育て支援について、子どもを中心に考えると、共に親を親にしていける作業の大切を学んだ。職員間の連携の大切さ、子どもにとって安心できる環境づくりの大切さ、保護者へ写真や手紙などを園側から発信する意味の重要性を改めて学んだ。

8分科会

共感し合える保育者と保護者との関係づくり(98名)

助言者 神長美津子(國學院大学・教授)
コーディネーター 栗田 英子(黒羽幼稚園・園長)

参加者の声



今まで自分ではしたことのない共感の仕方を学んだ。具体的な信頼関係の築き方、家庭との連携の取り方を学ぶことができた。日頃から保護者に寄り添い、共感することで、信頼関係が少しずつ積み重なって生まれてくるものなんだと改めて感じた。

9分科会

子どもの安全～とっさの時、どう動く？～(50名)

助言者 宇都宮市中央消防署 救急グループ 担当官
 岩淵 千鶴子(宇都宮大学教育学部附属幼稚園・養護教諭)
コーディネーター 佐藤 麻矢子(野ばら幼稚園・園長)

参加者の声



命の大切さを改めて痛感し、いざという時にとっさの判断が出来る、率先して動けるようにしたいと思った。見ている、知っている、分かっているつもりであったが、実際にAED心肺蘇生法、包帯、三角布の巻き方などを実践できてよかった。

10分科会

特別支援教育<初級>(92名)

助言者 人見ケエ子(下野市学校教育課・相談員)
 福田恵美子(小山市リズム園・顧問)
コーディネーター 小倉 庸寛(愛泉幼稚園・副園長)

参加者の声



子ども(園児)が一番困っていることに気付いた。援助するにしてもその子をよく観察し、その子にあった対応が必要であるし、大切なのだと感じた。目の前の子どもと向き合っ楽しく、しっかりと保育したいと思った。

11分科会

特別支援教育<中級>～言葉の育ち～(100名)

助言者 遠藤 重典(国際医療福祉大学・言語聴覚学科講師/栃木県言語聴覚士会会長)
コーディネーター 大中 清見(法得幼稚園・園長)

参加者の声



子どもをしっかりと理解し、細かく様子を記録していくことが大切。誉める時は、子どもの行動を言語化するということをすぐに実践したい。丁寧な言葉かけ、絵本の読み聞かせの大切さを知った。

12分科会



研修会だより

平成二十五年 青年部研修

期日 平成二十五年六月七日(金)

会場 ホテルニユーイタヤ

参加 二十六名

テーマ 「おちゃっぴ粘土教室」

講師 おちゃっぴ氏

粘土キヤラクターデザイナーのおちゃっぴ氏を講師に迎え、ゆっくりと丁寧に粘土の使い方をおちゃっぴ氏から教わりながら、全員が個性豊かな「いぬ」を楽しく作りあげた。



最初、三色の粘土を混ぜて茶色を作るところから集中と想像がスタート。粘土をこねながら、立体を作るには物事を多面的にとらえることや、どんな作品にも個性と発見と可能性があるので決して否定しないこと、真似ることから学ぶことはとても大きいこと、など、保育にそのまますながら考える方を教わった。つまようじを使って細部の位置を決めた

り、形を作ったり模様にしたり、道具の使い方も参考になるものが多いところがあった。

考え方や技術を学ぶだけでなく、集中して発想を形に表す楽しさを肌で感じ、達成感を味わって自信をつける貴重な経験ができた。

第一回保育テクニカル講座

期日 平成二十五年六月十一日(火)

会場 パルティ

参加 百四十八名

テーマ 「体を使って遊ぼう」

一、全体であそぶ

(ゲーム・リレーあそび)

二、なわとび・マットあそび

三、鉄棒(導入・指導・活用)

講師 日本幼児体育連盟

橋本幸造氏

今回の講座では、子どもの目線で活動に取り組みという貴重な体験ができた。

手遊びから始まり、グループを作ってゲーム感覚で楽しめるものもあり、参加者同士が自然に交流を持つことが出来た。

来、日々の保育で参考になるものばかりだった。その後、縄跳びとマット運動の指導を受けた。

保育のなかで、最終

か、最終



的な結果をつい最優先に考えてしまいがちだが、講師の先生から「楽しむことが一番。楽しいと感じて、たくさん遊ぶことで結果的に出来るようになる」ということを学んだ。そして、そのために保育者にできることは、子どもたちが安心して挑戦できるように環境をととのえることとあり、また、一緒に楽しむことだと改めて実感した。

設置者・園長研修会

期日 平成二十五年六月十二日(水)

会場 二荒山会館 鶴の間

参加 百十七名

研修1 「微小粒子状物質(PM2.5)の注意喚起に係る当面の対応について」

担当 課長補佐 高梨弘幸氏

本県では、日平均値が七十

場合、注意喚起する。

本県の注意喚起の方法は、八時に

市町村等関係機関へ通報(Fax、

本県HP、防災メール等)される。

屋外での長時間

の激しい運動を

控え、屋内にお

いても換気や窓

の閉鎖を必要最

小限にし、子ど

も、高齢者等は

より慎重に行動

すること。

研修2 「地方版 子ども・子育て会議

への私立幼稚園の取り組み」

佐野市の事例」

佐野市の事例」



講師 佐野地区幼稚園連合会

会長 小林研介氏

佐野市は平成二十二年、今

後十年間で公立保育所十五カ

所を十カ所に統廃合し民間保

育所五カ所を整備するという「佐

野市保育所整備運営計画」をまとめた。

この計画は私立幼稚園の認定こ

も園化を視野に入れており、市

の担当者が園長会に出向き講習を行

った結果、平成二十四年四月に私

立幼稚園を母体とする幼保連携型認

定こども園が開園。平成二十五年

度中にも一園が認定こども園となる

予定。

研修3 「経営者として知るべき労務

管理」

代表 作道義明氏

作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏

代表 作道義明氏



佐野市の事例」

教頭・主任研修会

期日 平成二十五年七月五日(金)
会場 二荒山会館 鶴の間
参加 六十九名
内容

講師 田淵光与氏
 今年より幼児教育センター長に就任された田淵光与先生を講師に迎え、教頭・主任研修会が行われた。
 はじめに子育て三法に関する講話があり、今日の社会環境における幼稚園の立場の解説は的を射たものであった。
 管理職として欠かせない組織マネージメントでは、PDCAサイクルが機能しているかを確認し、仕事の内容を明確にすること。「二人は園を代表する」という組織作りの大切さを再認識させられた。後半は、DVDを題材に自由に意見交換するという手法(ワールドカフェ方式)を学び、園内研修においてすぐに実践できるよう、体験学習した。

期日 平成二十五年七月十日(水)
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 百五十三名
内容

講師 大妻女子大学教授 柴崎正行氏
 歴史を学ぶかというテーマを、戦前の様子などから解説。なぜ幼稚園でピアノを弾くようになったか、室内の保育教材や園庭はどう変化していったかなどの事例から、歴史から学ぶ幼児教育の基本とはどんなことを学んだ。



期日 平成二十五年七月二十四日(水)
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)
参加 一七二名
内容

講師 宇都宮中央警察署交通総務課長 警部補 齊藤 大氏
 関東自動車(株)総合サービス事業部 輸送部 課長補佐 糸井宏文氏

期日 平成二十五年七月二十四日(水)
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)
参加 一七二名
内容

講師 宇都宮中央警察署交通総務課長 警部補 齊藤 大氏
 関東自動車(株)総合サービス事業部 輸送部 課長補佐 糸井宏文氏



期日 平成二十五年七月二十四日(水)
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)
参加 一七二名
内容

講師 宇都宮中央警察署交通総務課長 警部補 齊藤 大氏
 関東自動車(株)総合サービス事業部 輸送部 課長補佐 糸井宏文氏

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。

期日 平成二十五年八月八日(木)～九日(金)
会場 高崎健康福祉大学(高崎市)他
参加 約八百名の教員が集まり開催された。大会初日は開会式の後、中央大学の鯨岡峻教授の「みなが育ち合える保育の実践をめざして」と題した基調講演、続いて大妻女子大学の柴崎正行教授をコーディネーターに三名のシンポジストを招き「保育者に求められる対話力とは」をテーマに記念シンポジウムが行われた。二日目は十一のフォーラムに分かれ研修が行われ、第一フォーラム「共感し合える保育者と保護者の関係づくり」を栃木県の先生方が担当した。





新規採用幼稚園教諭 宿泊研修報告

新採研宿泊研修実行委員長

金子 礎泰（聖幼稚園 副園長）

猛暑の八月五日（月）
とちぎ海浜自然の家で百九十一名の参加者と十六名の実行委員・講師で研修を行った。



入所式後のグループワークトレーニングで、互いに長所を言う自己紹介、グループのルール作りの話し合いを通じて、気持ちも新たに三日間のスタートを切った。



次は「幼児教育者としての自分磨き」と題して印象戦略家のちとせ先生のセミナー。ちとせ先生も幼稚園教諭の経験があることを知ると親近感を持てたよう、話に聞き入っていた。「人は変わる、笑顔は大切」ということを学んだ参加者たちは生き生きと

した表情を浮かべていた。
続いて、「クレド作り」。

どんな先生になりたいのか？その為にすべき事は何か？この研修では、グループで一つのクレド作り

に取り組んだ。グループのクレドから自分自身のクレド作りに発展したグループもあった。クレドはレベルアップしていくもので、日々の保育の中で見直してもらいたい。

次は、六つある活動より二つを選択する選択活動。どの活動もそうだが、幼稚園教諭の喜び、先生としての再認識、創造性を持つて欲しいなどの願いを込めて指導にあたった。学んだことは、明日からの保育に生かしたり、自分なりにアレンジして子どもたちに教えてもらいたい。



夜の任意活動は、リラックスした気分に参加できる内容である。横になる夜空を眺める、アロマを炊きながらストレッチ、音



06

楽を聴く、悩みを相談するなど一見、保育と離れているように思えるが、年々この任意活動も重要な位置づけとなっている。



最終日はグループ全員で力を合わせての手あそびコンクール。決して十分な時間はないがその中で、現場で使えるもの、手あそびであること、年齢に応じたものなどを意識して作ってもらった。どのグループも素晴らしい手あそびが出来ていた。ぜひ、自園の子どもたちに見せて欲しい。

最後に、実行委員長として最後の年というところで、実行委員、講師の先生方、事務局の方々に心から感謝したい。皆様に支えられて任期を無事に終わることが出来た。この経験を通して、自分自身の成長を感じている。そして仲間意識もより強いものになったと信じている。これらの皆様の活躍と参加した新採教諭の益々の成長を心から願っている。



仲間意識もより強いものになったと信じている。これらの皆様の活躍と参加した新採教諭の益々の成長を心から願っている。

就職説明会

期日 平成二十五年七月十四日（日）

場所 マロニエプラザ大展示場

参加状況

参加園数 百三十七園

参加者数 四百七名

参加者内訳

県内学生 三百三十名

県外学生 七十一名

一般 六名



今年で十七回目を迎えた、栃幼連主催の就職説明会が開催された。幼稚園側、学生側にとっても大事な機会ということもあり、参加園も多く、また、学生においては早い時間から開場を待つ姿も見受けられた。開場と同時に学生は関心のある園に向き、話を聞き入っていた。直接、園長先生と話せる機会ということもあってか、終了時間が過ぎても熱心に話に耳を傾けている学生の姿が印象的だった。





幼児教育センターだより



新規採用幼稚園教諭研修 (第十六分科会)

七月二十五日に栃木県幼稚園教育研究大会第十六分科会として、新規採用幼稚園教諭研修の第三日を行いました。

★演習「幼児理解」

午前中は十のグループに分かれ、「幼児理解」をテーマにビデオ視聴による演習を行いました。

三歳児と五歳児の保育のビデオを視聴した後、視線や表情に表れる幼児の思いや、発達に応じた教師の援助に視点を当て、協議しました。受講者は、「子どもの思いや発達により、



保育者の援助が変わることが分かった。」「三歳児は自己発揮し、五歳児は友達と話し合う経験の大切さに気付いた。」など、自分の保育や子どもの見方を振り返る感想が寄せられました。

各地区から選ばれた指導助言の先生方の創意工夫を凝らしたグループ協議と的確な指導助言で、幼児理解を深めることができました。

★ワークショップ

「コミュニケーション能力の向上を目指して」

午後は、総合教育センター生涯学習部の職員を講師として、「コミュニケーション」をテーマとしたワークショップを行いました。

相手の話に心を寄せて聴く「傾聴」やコミュニケーションの「魔法



の5S言葉、自己肯定感を育むほめ方を体験しました。受講者は、「保護者とのかわりには少し苦手だったが、笑顔で接していた。」「具体的にほめることの大切さが分かった。」などと研修を振り返っていました。

幼・保・小連携研修 二人一人の発達と学びをつなぐ

幼・保・小連携

七月十六日に幼稚園・保育所・小学校の教職員を対象に「幼・保・小連携研修」を行いました。講師は、帝京大学大学院客員教授の矢野英明先生です。矢野先生が相模原市立富士見小学校長時代に行った、S・S・T（スタディ&ソーシャルスキルトレーニング）の取組は、入学当初、学級や担任を固定せずに保護者の有志と一学年担当教員全てで子どもとかわる、幼児期の生活を踏まえて時間割を編成するなど、幼・保と小の連続性を意識したものです。これにより、子どもが安心して学校生活を送り、学習への意欲が高まったな



どの成果をお話しくださいます。受講者からは、「連携を教育課程に位置付け、保護者や地域とともに継続して取り組んでいることが素晴らしい」などの感想が寄せられました。管理職者として柔軟かつ誠実な経営を行う姿から、多大なるエールをいただきました。

園内研修を応援します！ 一園一校による合同の研修の取組

七月二十六日、宇都宮市の平出むつみ幼稚園と平石中央小学校の教職員による合同研修が行われ、幼児教育センター職員もアドバイザーとして出向きました。

この幼稚園と小学校は、数年前から継続した教職員の交流があり、今年は、小学校の校内研修に幼稚園も参加しました。研修内容は、一人一人の発達や学びの連続性を保障できるように「指導要録の記入と活用」



を取り上げました。ビデオ「いっしょにやろうよ」を視聴し、五歳児ハルカちゃん（登場人物）の担任になったつもりで要録

を書いたり、小学校一年生に入学してきた際の配慮事項を話し合ったりしました。指導要録が、適切な指導の手立てを考える上での有効な資料となるよう、記入のポイントや読取りの視点などを共通理解した有意義な研修になりました。

当センターでは、平成二十六年二月七日のスキルアップセミナー（Ⅱ）で、要録の作成と活用についての研修を行います。お申込みをお待ちしております。



これからの研修

幼稚園・保育所等

パワーアップセミナー(第三回)

十月三日(木)

講話「児童虐待への対応」

講話「親学習プログラムについて」

演習「体験！親学習プログラム」

演習・協議「地域に開かれた園づくりのアクションプランを作ろうⅡ」

スキルアップセミナー(Ⅰ)

十月十七日(木)

《保育に生かせる表現運動》

講話「子どもの遊びと体力」

日本体育協会スポーツ科学研究室

室長代理 森丘 保典 先生

講話「幼児期の体づくり」

実技「幼稚園・保育所でできる運動遊び」

宇都宮共和国教授 河田 隆 先生

お申込みは、電話・FAXで

どうぞ。



学事だより

県文書学事課

平成二十五年幼稚園財務関係調査の実施について

八月から標記調査を対象の幼稚園において実施しています。調査内容は次のとおりです。

- ・学校法人の管理運営状況
- ・幼稚園の管理運営状況
- ・会計処理状況 等

実施日時等の詳細については、調査対象となる幼稚園設置者宛てに通知しています。調査への御協力をお願いします。

また、今年度、調査対象外の幼稚園においても日常業務の再点検を行い、適正な管理運営に努めていただくようお願いします。

なお、点検の結果、園則変更、園地・園舎変更、理事・監事就任届等が未提出の場合には、早急に提出されるようお願いします。

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金交付申請書

- ・提出期限 十一月上旬（予定）
- ・平成二十五年幼稚園運営費補助金（一般補助分）の内定については、十月末頃を予定しています。交付申請書の提出にあたっては、別途通知する内定通知に基づき提出願います。

ます。

●幼稚園教材費等補助金交付申請書

- ・提出期限 十月下旬（予定）
- ・幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（特別補助分） 関係書類

一 特別支援教育

提出書類

- ア 対象園児就園状況調査書
- イ 対象園児担当・指導教職員に関する調査書

- ウ 対象園児である旨の判定調査書
- ・提出期限 十月二十五日（金）

※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書、児童相談所の判定書のいずれかが必要となります。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、御留意願います。

二 子育てランド事業

提出書類

- ア 子育てランド事業実施計画書
- イ 各事業における保護者等への案内通知（写）

- ・提出期限 十一月上旬（予定）
- 三 わんぱく保育推進事業

提出書類

- ア わんぱく保育推進事業実施計画書
- イ 預かり保育実施記録

- ウ 保護者等への案内通知（写）
- ・提出期限 十一月中旬（予定）

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上提出願います。

平成二十五年十月、十二月までの事業予定

10月3日	※パワーアップセミナー
10月12、26日	第20回 ピカピカの栃木県保育セオリー講座
10月16日	※スキルアップセミナー
10月17日	幼稚園教育振興の集い（日光市）
10月18日	資質向上選抜養成講座Ⅱ
10月19日	資質向上選抜養成講座Ⅲ
10月21、22日	第29回 全日私幼連設置者・園長全国研修大会（北海道）
10月29日	公開保育研究会（宇大附属幼稚園）
11月7、8日	全日私幼連関東地区代表者協議会（埼玉）
11月8日	※10年経験者研修
11月9日	とちぎ教育振興大会
11月13日	保育テクニカル講座
11月14日	①資質向上選抜養成講座Ⅱ
11月19日	設置者・園長研修会
11月20日	②資質向上選抜養成講座Ⅲ
12月17日	保育セオリー講座
12月26日	新規採用幼稚園教諭研修集合研修
	※は幼児教育センター事業

訃報

●宇都宮市 さくらが丘幼稚園

理事長 今井 昭男 先生
平成二十五年八月七日 逝去

●真岡市 真岡杉の子幼稚園

理事長・園長 川崎 茂 先生
平成二十五年八月十四日 逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

日が落ちてふと気が付くと、涼しげな虫の声と共に秋の気配を感じる昨今だが、今年の夏も連日猛暑が続き、熱帯以上の気温が続くかと思えばゲリラ豪雨による洪水や雷、更に竜巻による大きな被害が本県でも起きています。矢継ぎ早に続く異常気象のみならず福島原発の汚染水漏れや増税問題等々私たちの日常生活の先行きに不安な影を落としているように感じられてならないが、小松左京の小説が現実にならないければ、と願うばかりである。

そんな夏も終わりを迎えて、子どもたちの声が園庭に戻ってきた。九月に入り次年度の園児募集もスタートし慌ただしい毎日の中、いよいよ県内各地区において子ども・子育て会議が始まったようである。幼稚園関係者として我々はその会議の動向をしつかりと把握しつつ、長年の実績の中で培った幼児教育の根幹をぶれる事なく貫く覚悟で「こども園」等新しいシステムの未知の領域を切り開いていかねばならない。国の存亡を左右する「未曾有の少子化」問題を見据えたこの一大改革が、子どもたちのより良い育ちを守り、明るい日本の未来の希望の灯火となるように、微力ながら力を尽くしたいと思っている。

（石本眞砂枝）